

嚥下内視鏡検査開始

2021年6月1日より、入院患者様を対象に嚥下内視鏡検査を開始しました。2名の内科医師が検査実施のため講習を受け、言語聴覚士や病棟看護師とともに検査にあたっています。

食物を口に入れて咀嚼し、飲み込んで食道に送り込む動作を嚥下といい、その一連の流れのいずれかに障害のある場合、嚥下障害があると判断されます。この嚥下内視鏡検査（VE）は、内視鏡を鼻（鼻腔）からのど（咽頭）に挿入し、嚥下の様子を観察する検査です。だ液や痰の貯留の有無、飲み込み後の食物がのどに残留していないか、気管に食べ物が誤って入り込んでいないか（誤嚥）などを評価することが出来ます。



【院長より】

・入院患者様や施設ご入居の方を主な対象患者様として、嚥下機能の心配な方、胃瘻を作る方等にこの検査を行います。

【言語聴覚士より】

・嚥下内視鏡を導入することで、今まで評価が難しかった部分もより詳しく検査できるようになりました。飲み込みで困っている患者様に対して、検査が実施できることを嬉しく思います。また、実際の飲み込みの様子を見ながら、患者様と一緒に目標を立てて訓練していきたいと思えます。